

予算特別委員会

19年度の委員会は議長を除く議席番号偶数の議員が議長より指名を受け11名で構成。

委員長	大上正司
副委員長	岡前治生
委員	田淵基次
	木藤幹雄
	岡崎久和
	高山政信
	船曳順市
	北川清司
	松井 甫
	千原生造
	山下由美

去る3月15日から23日までの内6日間をかけて、付託された一般会計予算案・特別会計予算案等、合わせて12議案について慎重な審査を行い、採決の結果、一般会計では可否同数となり委員長採決で原案を可決し、特別会計も原案が可決され、28日の本会議で委員長報告・質疑の後、採決が行われ、一般会計予算案に対し修正案が提出されたが、委員長報告のとおり、賛成多数で原案が可決されました。以下、審査内容の概要を報告いたします。

企画部

地域情報化計画について
テレビのデジタル化だけの対応でなく、防災や福祉・インターネット等の対応など、地域情報化の遅れていることを考慮した取り組みを。

生活交通対策事業について
神姫バスより、赤字3路線の廃止の申し入れがあるが宍粟市全体の公共交通システムのあり方を検討する必要があるとの意見が出された。今後、(仮称)宍粟市公共交通検討会議を立ち上げ検討したいと答弁があった。

その他
音水湖利用事業は地域の活性化につながるしつかりした計画を。行政改革と合併協定項目調整の関係、又、指定管理者制度の充実などの意見が出された。

総務部

新庁舎建設に関し、周辺整備の考え方。経費削減効果や必要性など正しく住民説明を。北部3市民局がガラ空き状態なのに何故5階建ての庁舎建設か等の意見が出された。

その他、税の滞納、今後10年間

の公債比率の見通し、法人税の増収の見込みなどに対し、意見が出された。

福祉部

少子化対策に関連し、今後の出生率の推移、ファミリーサポートセンター事業の予算、放課後こどもプラン事業の体制づくり、学童預かり保育の拡大、児童に対する医療費助成、不妊治療助成などについて意見が出された。又、子育て祝い金や花嫁祝い金は、所得制限もなしに一律に支給する事より、児童の医療費助成など継続的な制度が良いと考え廃止したと答弁があった。

その他 生活保護の認定のあり方、外出支援サービスの充実、まちぐるみ健診のあり方、国民健康保険事業では、保険証のカード化のメリット並びに、資格証明書の発行について等意見が出された。又、老人保健事業では、20年度から後期高齢者制度への移行についての質疑がなされた。

産業部

特産品の振興と農業振興協議会

との関係、儲かる林業に向けた拠点づくりに対し、森林の集約化、原木の安定的な供給、加工から販売を考え、市内の林業関係団体等と協議している。又、山崎町岸田に進出の東海漬物株式会社、地元生産野菜の使用と従業員地元雇用優先についての意見が出され、JAや全農と協議しながら、生産者の組織及び生産量が安定して供給できる体制づくりを検討し、雇用は地元優先を要望している。

土木部

市道庄能上牧谷線バイパスの進捗状況、道路新設工事の路線選定基準、市営住宅の家賃滞納状況等について質疑がなされた。

水道局

合併協定項目で水道料金の調整見直しとあるが、どうなっているか。下水道の接続率向上と滞納について、又、処理場の管理委託の